

ラオスの子ども通信 12号

(1998年12月発行)



●スタディツアー98●

手づくり運動会で楽しみました。

ASP.Bラオスの子どもに絵本を送る会では、98年の夏、10日間のスタディツアーを行いました。今回の参加者は18人。ほとんどが20代あるいは10代という若さいっぱいのツアーとなりました。目玉企画のひとつは、昨年同様ホームステイ。会が支援するCCCのひとつがあるボリカムサイ県のバクサン町の人々のお宅におじゃましました。だれもがラオスの人々のあたたかさが深く心に染みわたる2泊3日のステイでした。

今回は、ツアーに先だって、子どもたちとの交流のためのさまざまな準備をしました。ラオスの文化についてはラオス人作家ウティンさんから、教育については留学生に自分の小学生時代に

ついて聞くほか、参加者の中の小学校の先生がディレクターとなって運動会を。東京外国語大学ラオス語学科の学生たちが中心になって紙芝居を。さらに、リコーダーの演奏、紙相撲などの工作遊び、マイムマイムなどのフォークダンスや歌など、参加者どうして相談し、練習して臨みました。運動会には、アシックスさんより綱引きのロープをご寄付いただきました。ありがとうございました。

今回のツアーのもうひとつのポイントは、ラオスからの留学生や、ASP.Bのヴィエンチャン事務所のスタッフ全員が参加したこと。彼女達にとっても、知らなかった土地を知ることであったり、日本の学生たちとの交流は楽しかったようです。

1998年 総会

■初めて総会をひらく

会が活動を始めて16年。これまで「総会」というものを開いたことがありませんでした。あまり自慢できることはありませんが、会則には定められているものの、実際には開催されなまままきていたのです。この数年、開かれた会活動を意識する中で、「通信」に年次報告を載せる以外にも、もっと活動の報告をきちっとおこなう場が必要だとは感じていました。毎年4月に支援の皆さんに参加していただくラオスの正月パーティー「サバイディーピーマイ」を、お祭りの要素のみでなく、活動報告を織り込むように色合いを変えてもきましたが、時間の都合もあり会の運営を話し合う場にはできません。

一方、大分前からこれまで何回も話しあわれてきた話題に、会の体制固めをどうするかというテーマがありました。

もちろんわれわれの会にも、代表がいて、事務局長、スタッフがいて、ボランティアたちがいるという、ヒエラルキー的な図式や、一般の方にも開かれていた月一回の定例会議、活動ボランティアが参加する世話人会が定期的に関わり、合議により物事が決められるなど、運営のルールは一応定まっています。が、役割分担が明快でないというか、名目的であるというか——会の意志決定が、いつ、誰により、どのプロセスで決まっていかが明快でない感がつきまわっていました。これらの「曖昧」さは発足の当初、会が代表のチャンタソン（個人）を中心とした仲間の集まりとしての性格を強く持っていたことに由来します。言ってしまうと、代表の意向で大体の方向が決まっていき、小さなまとまりの中で十分なコミュニケーションが取れることにより、あえてルールを必要としない組織であったといえるでしょう。

しかし、会の活動が現在のように広がるなかで、社会的責任も重くなり、また多額の資金を用いるに当たっての責任と意思決定を明確にする必要が生じてきました。

そこで会の運営ルールをもっと明確にするために、会則の変更を決めました。そのためには、

総会の開催が必要です。

総会については、郵政省から「会則には総会の規定がありますが、開催なさっていますか？」との問い合わせがあったことも影響しています。またNPO法案のことも意識されていました。

スタディーツアーの準備など、いろいろの制約により、結局8月16日、相当ずれ込んだ日程で総会は開かれました。お盆休みの真っ最中でもあり、参加者は20名弱といささか寂しい会合でしたが、97年度活動報告、会計監査報告、98年度活動計画および進行状況報告、会則の改訂討議、役員人事、「2000年までの中期計画」についての意見交換など盛りだくさんで、とりわけ、会則の変更については活発な疑問、意見が出されるなど意義ある場となりました。

総会で改訂された新会則は、ここに掲載したの通りですが、会の名称の変更。会員、役員、監査の役割、意志決定の場の明確化などが大きな改正点でしょう。総会の場では、この会は誰が担っているのか？役員(活動メンバー)なのか？活動ボランティアなのか？会員なのか？と論議が起き、第四条、第五条が事務局案より修正され、開かれた自主活動に力点を置いた内容となりました。

98年度役員人事は以下のように承認されました。

現在、日常的に事務所に代表、事務局長が詰める体制ではないことから、日常的な事務的処理での効率を上げるために、事務局長代理というポジションを新たに設け、スタッフである赤井がその役となりました。

代表	チャンタソン	インタヴォン
事務局長	森 透	
事務局長代理	赤井 朱子	
会計	風間 美苗	
総務	野口 朝夫	小川 直美
監査	小沼 千秋	
顧問	小沢 有作	越田 稜

ASPB ラオスの子どもに絵本を送る会 会則

第一条 (名称)

本会の名称は、ASPB ラオスの子どもに絵本を送る会とする。

第二条 (目的)

本会は、ラオスの子どもたちの教育環境の向上に協力寄与することを目的とする。またこの過程で相互の文化理解と相互交流を促進することを目的とする。

第三条 (事業)

本会は、前条の目的達成のため、次の事業をおこなう。

- ①ラオスにおけるラオス語図書、絵本等の印刷出版事業、普及活動、識字教育の充実のための協力。
- ②ラオスにおける情操教育の普及、整備事業。
- ③ラオスの識字教育、情操教育を担う人材育成事業。
- ④日本国内における、ラオス文化の紹介。
- ⑤その他、目的達成に必要な事業。

第四条 (会員)

本会の会員は、本会の活動の主旨に賛同し、活動を支援する個人、団体、法人によって構成される。

第五条 (会の活動)

本会の事業は、会員の自発的な活動によって担われる。

第六条 (役員)

本会には、次の役員をおく。

- | | |
|----------|------|
| ① 代表 | 1 名 |
| ② 事務局長 | 1 名 |
| ③ 事務局長代理 | 1 名 |
| ④ 会計 | 1 名 |
| ⑤ 総務 | 1～2名 |
| ⑥ 監査 | 1～2名 |
| ⑦ 顧問 | 若干名 |

第七条 (役員の仕事)

役員は会務を審議、決定し、会の運営をおこなう。

第八条 (役員会)

事務局長は、会務を円滑に進めるために、役員会を定期的で開催し、会務の審議、決定をおこなう。

役員会には、役員、事務局職員、役員会が特に承認した者が参加できる。

第九条 (役員を選出)

役員は総会によって選出する。

第十条 (任期)

本会の役員の任期は、二年とする。ただし再任は妨げない。

第十一条 (総会)

総会は、代表が会員を招集し、年一回以上招集する。

その他、役員会または監査役が必要とする際には、臨時総会を開催できる。

総会は最高意志決定機関として、役員選出、予算、決算の承認、事業計画の承認、その他の決定をおこなう。

第十二条 (事務局)

本会の事務処理をおこなうために事務局をもつ。

第十三条 (会計)

本会の事業遂行のために必要な費用は、寄付金、事業収入、各種補助金等によってこれを支弁する。

本会の会計年度は、毎年一月一日に始まり、十二月末日をもって終わる。

第十四条 (年次報告書の作成)

事務局長は、毎年度末における年次報告書を作成する。

第十五条 (会則の変更)

本会の会則を変更しようとするときは、総会の承認を必要とする。

総会では最後に、2000年までの中期計画についてということで、今後三年間の活動方針についての活動ビジョンが説明されました。要点は次のようなものです。

・これまでの活動を基本的には継続する。しかし、現地活動の自立を目標とすることで、これまで以上に、人材育成を重視する。

・さらに、現在の絵本を送る・出版する・届ける活動の展開として、中長期的に、ラオスの出版産業および書籍流通の自立を促すべく、将来のラオスでの会独自の書店経営も視野に入れる。という内容です。しかしながら、話し合いの時間が充分

にとれず、各項目の詳細については、話し合いを重ねていくことになりました。

今回の総会は、初めての経験で、何とかこなしという印象で、もう少し会員の話し合いを引き出す努力など、今後の課題を残しました。しかし、会則の改定により、会の運営の実体にルールの方を合わせることができ、運営が若干すっきりした感じがあります。これらの決定が、今後開かれた会として、活動の質を上げることにつながるよう努力していきたいと考えています。

ラオスの紙芝居
はじまりはじまり
山形編

まるちゃんは人気者

山口和子(「ひこうき雲」)

ラオスの紙芝居3部作が、日本の各地に、じわじわと広がってきています。今回は、山形から寄せていただいた「紙芝居だより」をご紹介します。

長野ヒデ子先生から「ラオスの紙芝居できたのよ」と声をかけていただき、さっそく注文して届いた紙芝居を見てびっくりしました。

(色がすてきラオス色、2か国語、めずらしい)

さっそくお話し会でということになりましたが、さて、ラオスという言葉はよく耳にするけれど生活習慣も正確な国の位置や形もわかっていないのに気づきあ然!あわてて図書館に駆け込むしまつです。

いつもお話し会に来てくれる子どもたちは幼児と小学生が中心で、いっしょに参加してくれるおじいちゃんやお母さん合わせて20人ちょっとです。

三巻のうち、自分達の子どもにも人気の高かった「まるちゃんのともだち」をすることになりました。

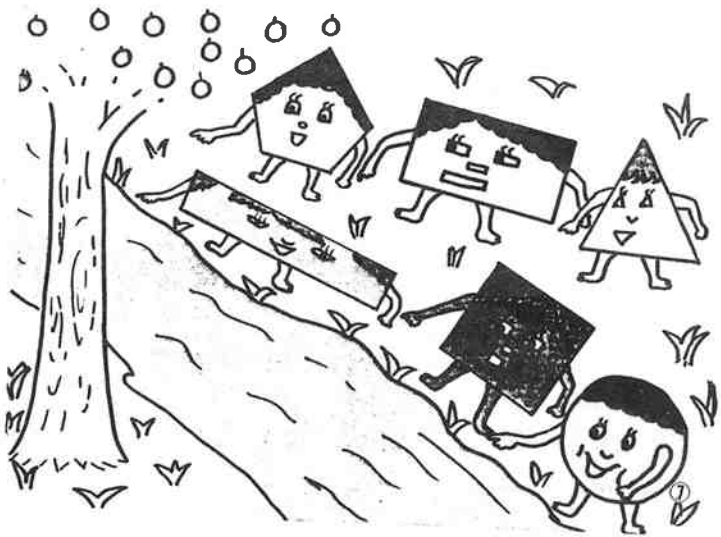
始める前にまずラオス語でこんにちは(紙芝居に書いてあったよ)のごあいさつ。

子どもたちはすぐにラオス語と友達です。そして、紙芝居のはじまり、はじまり。

次々に出て来るまるちゃんの友達を子ども達はどんどん予測していたり、いつのまにか私も子どもたちとキャッチボールをしているようで楽しかったです。

まるちゃんは人気者で、この時二回も演じてしまいました。とってもシンプルな発想だと思うのですが、繰り返しが人気のひみつなのでしょう。

子どもたちから、私もやってみたーい、まるち



ちゃんにもっと友達つくってやりたーい、との声もありましたが、今回の予定時間がオーバーしてしまったので次回のお楽しみにしました。「まるちゃんのともだち」をフランネルシアターにしたら楽しいだろうなと仲間と話しています。私達は雪が降り積もる頃、紙芝居の舞台作り講座を計画中。自分たちの手づくり舞台とラオスの紙芝居でお話し会をして沢山の人が、ラオスの紙芝居に出会ってほしいと思っています。

長野先生、ラオスの子どもに絵本を送る会のスタッフのみなさま、ありがとうございました。

山口和子さんは、山形県東根市で、「ひこうき雲」の仲間と、毎月一回、子どもの本の読書会をしながら、季節ごとに「おはなし会」を開いています。「ひこうき雲」は絵本の読み聞かせ、紙芝居、ペープサート、フランネルシアターなどなど、10人のお母さんの集まりです。

ヴィエンチャン最近事情

光本政彦(ラオス国立大学在学)

私がラオスへはじめて足を踏み入れた頃、ヴィエンチャンは雨季の真っ只中にあり、猛暑と時折思い出したように激しく襲うスコールとが、ここが熱帯であることをいやがおうにも実感させてくれました。それから4か月。朝晩めっきり冷え込むようになり、熱帯にあって季節感を感じる心地よい季節となりました。

現在、私はヴィエンチャン郊外のドンドークにあるラオス国立大学に籍を置き、隣で牛が草を食べている、のどかなキャンパスにて若いエネルギーを発散させています。こちらに来てまだ4か月ということもあり、分からないことばかりですが、それでも私なりに何かお役に立てることがあればと思い、筆を執った次第です(この文章は私の個人的な感想にすぎないことを断っておきます)。

ラオス人はお祭りが大好きです。9月も終わりに近づいた頃、待ちに待ったブン・スワン・フア(龍神平静祈念祭り)の時期がやってきます。

というのと何か堅苦しく聞こえますが、もったいぶらずに言ってしまうと、「ポート祭り」のことです。この時ばかりは、日頃比較的のんびりした趣のメコン河も大小様々な店で賑わい、河沿いに走るファー・グム通りは人でごった返します。人込みから遠ざかって久しかった私は、軽い眩暈さえ覚えました。ポートレースで久々に人の流れに久々に人の流れに身を任せ心地よい疲れの中、帰途についた我々の目に突如5人の美女が飛び込んできました。彼女たちは意外にも某タバコ会社の(俗に言う)キャンペーンガールの人たちでキッチンとした制服に身を包んでいました。さながら鈴鹿のサーキット場のように…。信じられない光景にラオスが変わりつつあることを実感した瞬間でした。そういえば、ヴィエンチャンをバイクで走っていると瀟洒な建物をよく目にします。どういふ人が住んでいる御殿か紗だかではありませんが、本当にきれいな家がたくさんあります。家だけを見れば、ここが途上国であることを忘れてしまいそうです。街は車やバイクであふれ、朝のランサン通り(メインストリート)では、交通渋滞(?)に近い現象を見ることもあります。昔から住んでいたわけではないので、過去との比較は難しいも

のですが、それでも、この街が今まさに変わりつつあることぐらいそうぞうすることは容易です。それに伴い、目にする交通事故の数も増えました。

一説によるとラオスは女性の数が多いとのこと。それは交通事故で亡くなる男性の影響だそうです。この話がさだかであるか、私には分かりませんが、このヴィエンチャンで生活していると妙に信憑性のある話に思えてきます。

先日(10月21日～11月4日)、タート・ルアン(ラオスを代表する寺院)で盛大な祭りが催されました。物があふれ、祭りを楽しんでいる人々で会場は埋めつくされていました。こういうことばかり目にしていると、日本で抱いていたラオスの印象とのギャップを感じがちですが、これは見せかけに過ぎないのかも知れません。依然として、国家公務員に代表されるように人々の手にする給料はわずかであることに変わりはなく、最近の物価の上昇が人々の生活を逼迫しているのは客観的な事実です。

このように、ヴィエンチャンの街並みは変わりつつある様ですが、やはり朝早起きをして街を覗くと、仏教国らしい儼かな托鉢の光景を見ることができます。メコンの夕日、ラオス人の笑顔、朝の托鉢…と、街が変わりつつあるとはいえ、ラオスには、その根底に穏やかな時の流れを感じさせてくれる瞬間があります。どちらのラオスが本当のラオスか。一概には言えませんが、その両面が共存しているのが、現在のヴィエンチャンの実情ではないかと思えます。

よく言われる話ですが、私もラオスが発展していくことに対し批判する立場にはありません。自分の生活を死守しつつ、ラオスが発展することに批判的なのは如何にも無責任な気がするからです。ただ、先進国が発展に邁進した中で失ったもの、そういう歴史が教えてくれたものをラオスの人たちに伝えていくことぐらいはできそうです。

[ヴィエンチャン最新情報]

1US\$: 4160Kip (98年11月6日現在)

チャーハン1杯 : 3000Kip

オートバイ1台 : 約1300US\$

大学までのバス賃(片道) : 200Kip

*これらの数字はもちろん、お店によって開きがあります。

9月のラオス事務所での何気ない一日

野崎秀和(東京事務所ボランティア・学生)

ラオスの朝は早い、それは日本の朝が遅いのではなく、普段の私が遅いせいかもしれないが、おかげで私もすっかり早寝早起きになった。目が覚めたらゲストハウスを出発、途中の道を朝の散歩を兼ねて少し歩き、事務所に着くのがほしい8時前、この時間には道ばたのお店はもう殆どが開いている。ちなみにアヌホテルのそばにある果物屋はラオスでは珍しい24時間営業なのだ。

そして事務所にはもう既にカオさんが来ていて掃除をしている。「サバーイディー、良く眠れた？野崎さんは朝が早いね。」と言ってくれるが、そう言う自分は7時には事務所に来ているらしい。他のスタッフの人も私と同じ頃には来ていて仕事をする。私もカオさんを手伝って掃除を済ませてしまう。モップ掛けとトイレ掃除が私の担当になっていた。いつ子どもが来て大丈夫なように念入りにやる。掃除が終わったら朝御飯、隣のお店でカオピヤックを頼んで、事務所で食べる。

カオピヤックとはラオス風のお粥で、ご飯粒のお粥とソバのお粥があるが、ソバの方が主流だ。これを自分の好みに味を調節して食べる。旨くてその上井一杯30円というからやめられない。事務所に行く途中でフランスパンのサンドイッチを

買って食べたりもしたが、私のお気に入りはやっぱりカオピヤックだった。

話は飛ぶけれども、ASPBの隣のこのお店はピアラオ(ラオスの国産ビール)を大瓶一本確か1800キップで売っていた。しかしある日突然店先から消えてしまったのだ。店のおばさんに聞いたところによると仕入れ価格が値上がりしたのでやっぴりなくなったからやめたということだ。確かにある日を境にどこの店でもピアラオの価格が一律500キップ値上がりしたような気がする。

朝御飯を食べて腹ごしらえも済ませたら後は子どもが来るのを待つだけなのだが、実のところ9月になって学校が始まってしまっただけからは、平日の朝から来ている子どもは殆どいない。もし土曜日と日曜日ならば学校も休みであり先生が来て教室が開かれるので朝から子どもが沢山来てくれる。絵を描いたり、歌や踊りを習ったり、演劇と英会話教室まである。隣で見たり、一緒にやったりしているといつの間にか一日が過ぎてしまう。

では平日は何をしているかというと、月曜日の午前中は土屋マリ子先生による日本語講座が開かれている。これは一般に無料で公開されているが



カオさんは体は小さいけれど元気いっぱい事務所と同居している図書館の仕事を中心に子どもの相手や図書館の整理などを行っている、いつも陽気で、おしゃべりとディスコが好き、私もディスコ好きで、「今度ディスコ行く？」というのは挨拶がわり？もちろん答えはYES!

バンオンさんは最年少ながらしっかりした性格で図書館の方の仕事は仕切っている。



現在妊娠中で通信12号が発送される頃には第一子が誕生かも、そのバンオンさんの心配事の一つが夫のアッティアさん、面白くてカッコいい、そして働いている銀行には美人の女子行員がそろっていてアッティアさんは結構人気があるらしい。それはさておき、お二人とも末永くお幸せに。



チャンシーさんはもともと子ども文化センターのスタッフだが子ども文化センターが移転してきた為これからはASPBで働くことになる新人だ。カオさんよりもさらにおしゃべり好き。スタイルも良くてラオス人にも日本人にもモテるらしい。これからの仕事ぶりに乞うご期待。

主な受講生はやはりスタッフの5人だ。5人とも一生懸命に習っているが、普段私にとって先生のはずの人達がたかが五十音ごときに苦勞している。あのソムベット姉さんでさえ「た、ち、ちゅ、て、と」なんていっている。可笑しくてしょうがなかった。

それ以外の日は特に講座があるわけではないのでスタッフの人達は普通に仕事をしている。2Fのオフィスでの詳しい仕事の内容はよく分からないが、ソムベット姉さんは出かけて行ったりお客が来たりしてわりと忙しそうに動き回っていた。ポーケオさんはオフィスにこもっての仕事が多いようだった。図書館の方はというとこの時期は子どもの代わりに本やら文具やらが沢山やってくる。これらは新しく開かれる学校図書館や地方の学校に送られるもので届いた本に図書館で使えるように貸し出しカードを付けたり判子を押したり、出来上がった物を発送できるように梱包したりしなければならぬ。バンオンさんとカオさんとチャンシーさんはその作業に追われて忙しそうだった。

それでは私は何をしていたかと言うと主に少ないけれども遊びに来てくれた子ども達と一緒に遊んでいた。しかし、子どもが居なかったり、本に読みふけっていて私が逆に邪魔になるような時は、作業を手伝っていた。梱包や荷物運びと言った力の要る仕事はやはり男手がないと辛そうだったので、本の詰まった箱の数と重さには少し参ったが役に立てて嬉しかった。けれど、結局私って日本でもラオスでもやっている事は一緒だなとも

思った。見本を見ながら貸し出しカードにラオス語を書き込む作業も手伝った。遅すぎてとても手伝ったと言える程ではなかったが、面白半分で練習を兼ねてみんなと一緒にやっていた。こういう作業の時日本人なら黙々となりがちであろう。ところが、彼女達の口から会話が途切れることはまずない。私がしばらく黙って作業していれば「野崎さん気分悪いの？」なんて言われてしまう。気を使って貰ったんだか何だかよく分からないが、何を話しているのか半分も分かっていない私にどうやって話に混ざれと言うんだと思いつつも、元気がないとは言わせないと私は変なこだわりを持って、今までの彼女らの話を無視していきなり自分の話をしてしまう。「昨日の夜サイサナホテルのディスコに行ったんだ」と言えばカオさんとチャンシーさんは絶対に食いついてくる。これでしばらくの時間は話に混ざることができる。

そんなこんなでしばらく作業していると昼になる。ポーケオさんとソムベット姉さんも降りてくる。

「野崎さん何食べる？」と気を使って私に最初に聞いてくれる。なのに私は「カオピヤックだよ」と適当に答えてみる。いくら好きでも朝昼で一日に二回も食べるわけがない。みんなも分かっている事でいつものお約束なのだ。私の作戦としてはよっぽど食べたい物がない限り、スタッフが何を食べるのか少し様子を伺ってから昼食のメニューを決めるようにしていた。彼女らはラオス料理のプロだから私が食べたことのない料理を何気なく

ポーケオさんは2Fのオフィスで主に会計の仕事をしている。顔のわりに仕事に厳しい。一方大好きなヨーグルトを作るつもりが砂糖を入れ

忘れて大量の腐った牛乳を作ったこともある。一人娘のアリーちゃんは今年生まれたばかりだが、母親と正反対でブクブクのおデブちゃんなのだ。でも可愛い。



ソムベット姉さんはキャリアウーマンと言った感じで、まさにヴィエンチャンASPのボスだ。けれどコンピューターの事となると急に弱くな

ってしまうのだ。それでもさすが姉さん新しいものには興味があるのか只今頑張って練習中。それから意外とイベント事が好きでたまに来る日本人をいつもの仕切でもてなしたり、私の誕生日には家でパーティをしてくれた。



昼食に食べるかもしれない。それなのに自分の狭い知識の中から焦って答えを出してしまうのはしごくもったいないことだ。誰かが手作りのおかずを持って来ている時が一番嬉しい。餅米と適当なおかずを買い足して一緒に食べながら家庭料理を御馳走になってしまうのだ。みんな料理が上手でとってもおいしい。昼食の後一休みしたら午後の仕事を再開する。しかし私が見ていた感じではやっぱりみんな昼休みには昼寝をしたいらしく我慢しているようだった。

午後になると、事務所のコンピュータをネットワークに接続するためにエンジニアがやってくる。ネットワークに接続して電子メールを使えるようにする作業は、元々私に課せられた使命であったが、機器の故障もあり私では力及ばずプロに頼むことになったのだ。ところが、プロの技を持ってしても事務所のパソコンを手名付けるのは困難なようでこのお兄さんは毎日のように事務所に通っていた。そして私が立ち会うのだが私だと話が通じないので、ソムベット姉さんに助けを求めると姉さんはコンピュータのことが分からないのでなかなか大変だったがこのお兄さんが親切な人で土日の休みも返上して丁寧に教えてくれたのでついにはソムベット姉さんが自らの手で電子メー

ルを送ることに成功したのだ。

このような感じで事務所の一日は一応終わるが、この後何と残業があるのだ。地方に本を送る準備の作業をするのだが、一度家に帰って夕飯や水浴びを済ませると又集まって来て作業を再開するのだ。この時はバンオンさんやカオさんの家族まで動員して行われる。夜の作業は昼にも増して和やかな雰囲気騒がしい。私がいるのでよく日本の話になるのだが男はどうも格闘技が好きらしく相撲やプロレスの話で盛り上がる。テレビでやっているのを見ているらしく、プロレスはやらせかどうかとか聞いてくる。驚いたのが、ダンプ松本を知っていたことだった。私が彼女は実際はそんなに悪い人ではなくて悪役を演じているんだと言ってもあまり信じてもらえず、彼女と結婚したがる男は絶対いないとかと話がどんどん勝手に進んでいく。会が寄付を受けているプロレス団体のTシャツをかなり気に入っていたことを思い出してそのことを言うと、即座にダンプ松本か？と聞かれた。ダンプ松本は結構人気があるらしい。

残業も10時には終わる。これで一日の仕事は完全に終わり。まだ一遊びできる時間だが、行っても行かなくても明日の朝は又早い。こうしてラオスのありふれた一日は更けていくのだった。



つぶさに公開。これがASPBの会計だ！

風間美苗 (ASPB会計担当)

時々言われることがある。「会計なんて数字ばかりでちっとも面白くないじゃない、なんでそんなことばかりやっているの？」確かに会計の仕事から数字を取ったら何も残らない。でも、数字からいろんな事が見えてくるのです。

日本の社会情勢や会の活動内容だけでなく、なにしろラオスの生の状況が、物価などに現れて姿を見せてくれるのですから。

私がこの会のことを知ったのは、もう8~9年

前のこと。そして活動に加えていただいたのは、1992年からでした。最初の1年はただ何となく時々たま会合に参加していただけ。1年ほどして、何ヶ月か会合もさぼっていたとき、月に何回か来て現金の記帳(入力)をしてみませんか、会から電話をいただいて、それから私の会計担当人生が始まりました。

本業の方でも、小さな会社の経理事務員ですから、同じような仕事ですが、中身が違いますので

全く退屈しません。作業の時間は、平日の夜と土曜または日曜日。普通は週に1~2回、決算期や報告書の時期は週に2~3回程度事務所に来ます。本当はいつもこのくらいのペースがよいのですが、決算などが終わるとつい気がゆるんでしまいます。そして反省点その1。日々の入力や決算時の集計をしているとき、ついつい数字の計算が合っているかどうか最大の関心事になってしまって、活動の目的やラオスの人々のことを忘れてしまい勝ちだということ。反省点その2、東京とラオスのスタッフや活動ボランティアが動きやすいように会計面でのサポートをもっとしなければいけない。たとえば財政状況を早く提示する等など・・・。

今年は初めてラオスに行って、現地スタッフに会えてうれしい年でした。短期間だったのでラオスの銀行に行けなかったのが残念。ラオス語の領収書がすらすら読めるようになるといいな、夢だけど。でも勉強しよう。

あの日、会計入力の仕事に誘っていただいた電話に感謝しています。何かアジアに関わっていた

いとの思いがなかったのですから。

会計の仕事はおもしろいですよ。どなたか一緒にやってみませんか！



◆ラオス事務所からの会計報告書の処理◆

1. 換算レートの設定。
最近為替レートの変動が激しいのでこれまでより細かくレートの月平均値を計算し、円帳簿のための換算レートを決めている。
2. 毎月送られてくるラオス事務所からの”CASH REPORT”を、記載してあるキップ・ドル・パーツの欄に加え、上記のレートを使用して円換算をし、月毎の出納帳を作成する。(ロータス1-2-3で作成)
3. 上記出納帳内容を確認しながら各科目を集計する。(補助簿の作成)
* ラオスCASH REPORTの確認集計は、赤井さんが担当している。
1. 及び入金を集計のみ風間が作業している。

◆決算期にする仕事です◆

1. 東京事務所の 現金・銀行預金・郵便振替口座 入力内容チェック及び残高確認。
2. ラオスCASH REPORT の各月繰越残高を確認する。(円・キップ・ドル)
3. ラオスCASH REPORT の入金・出金 各科目の集計内容の確認。
4. 換算レートの確認。
5. 期末為替レートによる、外貨(ドル・キップ・パーツ等)期末残高の円換算をして、換算差異を 計上する。
6. ラオスCASH REPORT によるラオス事務所口座の試算表を作成する。
7. ラオス試算表から各科目の金額をパソコン (小番頭) に入力する。
8. 全体の試算表を作成する。
9. 年度会計報告書に向け、収支計算書・貸借対照表・正味財産増減計算書・財産目録等を作成する。

◆そのほかにこんな仕事も◆

各助成金支払団体に向け提出する会計報告書の基礎資料作成。

◎ 東京の日々の入力より、赤井さんが行っているラオスからの CASH REPORT の処理が大変なのです。少しでも赤井さんの手間が省けるように考えているのですが。

◆これが日常の仕事です◆

[1 現金の出納処理]

1. 出入金伝票を書く
 - A. 入金伝票 寄附金等現金の入金があったときに扱った人が記入する。
 - B. 出金伝票 現金を支出したときに扱った人が記入する。
2. 1の伝票の仕訳をして、パソコンの会計ソフト(小番頭)に入力する。
3. 現金の実際有り高と帳簿残高を照合する。

[2 銀行預金の管理]

1. 通帳に記入されている出納内容を確認する。
2. 各出納を仕訳してパソコン (小番頭) に入力する。
* 実際に現金を引き出したり、ラオスに送金したりするのは赤井さんがやってくださっている。

[3 郵便振替口座の管理]

1. 寄附金の内容を確認する。
2. パソコン(小番頭)の郵便振替口座に入力する。
* 郵便振替口座はたまった金額を引き出すとき以外はほとんど寄附金の入金なので、件数が多いが科目は収入(補助科目有り)だけなので通常はボランティアの方に入力していただくことが多い。

[4 必要に応じて寄附金状況等を報告]

東京事務所の動き (98.4~98.10)

- 4月12日 定例ミーティング
 19日 「ピーマイ・ラオ」ラオスお正月パーティ
 (東京ガス大田支社)
 22日 キックマンラオス料理教室
 28日 ミーティング (世話人会)
- 5月10日 定例ミーティング
 スタディツアー第一回勉強会
 ウティンさんのお話と歓迎会
 13日 大田区国際交流団体懇談会 小川出席
 21日 プロレス「インディワールドvol.1」
 チャリティ大会 森出席
 23日・24日 地球市民フェスタ (江戸東京博物館)
 24日 三重県東部中学校修学旅行 事務所来訪
 ボランティア体験
 30日 スタディツアー第二回勉強会
 31日 愛知県横須賀中学校修学旅行 事務所来訪
 ボランティア体験
- 6月 7日 スタディツアー第三回勉強会
 14日 定例ミーティング
 16日 JANIC事務局長会議 森出席
 17日~24日 高知県国際交流協会 チャンタソン講演
 20日 アーユス公開理事総会 森出席
 21日 スタディツアー第四回勉強会
 「ラオスのこども通信」11号発送
 28日 ミーティング (世話人会)
 30日 郵政省国際ボランティア貯金平成10年度交付式
- 7月 5日 スタディツアー第五回勉強会
 12日 定例ミーティング
 19日 スタディツアー第六回勉強会
 22日 プロレス「インディワールドvol.2」
 チャリティ大会 小川出席
 29日 大田区国際交流団体懇談会 小川出席
 30日~8月8日 スタディツアー
 森・チャンタソン・小川同行
- 8月 16日 年次総会
 19日 運営会議
 30日 スタディツアースタッフ反省会
- 9月 7日~25日 JICA英語研修 小川が参加
 13日 定例ミーティング
 27日 スタディツアー反省会
 28日 専門家会議
- 10月 3日・4日 国際協力フェスティバル (日比谷公園)
 7日 東村山市立北山児童館
 「ラオスの紙芝居をたのしむ会」
 11日 運営会議
 17日・18日 OTAふれあいフェスタ
 24日 ボランティア活動日
 26日 郵政省国際ボランティア貯金NGO懇話会
 赤井出席
 27日 大田区ボランティア貯金推進協会総会
 運営会議
 31日 ボランティア活動日

4月から10月といえば、ラオスの雨季にほぼ重なりますが、トウキョウのカレンダーを見てみると、イベントが多い半年でした。続く11月からは、新年度のプロジェクト準備やイベント企画など、仕込みの季節。一方、ラオスでは雨季の間に出版などの仕込みをし、10月、11月ごろから始まる乾季に各地への配付等のプロジェクトを行います。どうやら、これがASPBの1年なのですね。そして、振り返れば、イベントの「当たり年」だったようです。

4月。当初、参加申し込みが少なくヤキモキしたピーマイパーティは、ふたをあけてみると例年以上の140名ものみなさんの参加を得、『ラオスのかみしばい』のお披露目もあり、大盛況だったといえるでしょう。おいしいラオス料理が評判のこのパーティ、未体験の方は来年ぜひお越しください。パーティは4月。3月下旬にはご案内できると思います。

10月の国際協力フェスティバル (日比谷公園) は、2日連続の好天に恵まれ、参加史上最高の売り上げを記録。「アジアの家庭料理 味庵(アジアン)」の名で他の2団体とともに出店したエスニックレストラン部門では、目玉メニューのラオス風カレーそうめんに行列ができるほどの繁昌振りでした。一方「子ども教育」カテゴリーでは、「参加」をテーマに複数のNGOが協力し、一つの展示を作り上げました。当日も、ボランティア同士の交流など、ネットワークが広がりました。また、この日は、スタッフの赤井と小川が「ラオスの紙芝居のお姉さん」としてデビューしました。

翌々週は台風10号に翻弄されたOTAふれあいフェスタ。大田区の市民祭りといった色合いのイベントで、日比谷とは客層が違います。初日に苦戦した「ラオス風カレーそうめん」を、2日目は「カレーヌードル」と改名して完売するなど、ネーミングや価格戦略が功を奏し、台風を吹き飛ばす売り上げに。マーケティングの勝利?でした。

これらのイベントで活躍してくださった、大勢のボランティアのみなさんに、心から感謝します。どうもありがとうございました。

お知らせです

●土曜日はボランティア活動日です●

これまで、定期的なボランティアの集まりがなかなかできなかったのですが、10月から、毎週土曜日をボランティア活動日として事務所で集まれるようになりました。午後1時から、会計や名簿などのパソコン入力、資料などの郵便物発送、翻訳絵本の整理などの作業をしています。徐々に、チームを作ってイベントやホームページの企画などもやっていきたいと考えています。

社会人の方にも参加しやすくなったと思いますので、どうぞ気軽に事務所をのぞいてみてください。なお、来られる時は、前日までにご連絡ください。

※第2日曜日の前日はお休み

●学校や地域のグループで参加しませんか。翻訳絵本づくり●

ラオス語翻訳絵本リストをもとに集めていただいた日本の絵本は、これまでヴィエンチャン事務所または東京事務所へ集積し、ASPBで翻訳貼付作業をしていました。

この翻訳貼付を、みなさん自身の手でやっていただき、現地へ送っていただくためのマニュアルづくりを進めています。絵本リスト約160タイトルのうち、日本で作業できる絵本は今のところ約95タイトルです。まずは「翻訳絵本マニュアル」をご請求下さい。

●『ラオス語入門』ができました●

ASPB代表のチャントソン・インタヴォンが共同執筆した待望のテキストが大学書林から発売されました。別売のテープもあります。

定価5700円(税別)。書店でお買い求めください。

●プレゼントにも最適。

●やべみつのりさんのイラストカレンダー2種●

絵本・造形作家のやべみつのりさんが、ASPBの紙芝居づくりセミナーでラオスに滞在したときのスケッチが、素敵なカレンダーになって、曹洞宗国際ボランティア会(SVA)から発売されました。どちらも使用後は、カレンダーの部分を切り離して利用できます。**壁掛けタイプ<ラオスの子どもたち>**

ヴィエンチャン近郊のノンニエン小学校の昼休みの風景。サイズ67×60cm 布製。シルクスクリーン印刷。2000円(税別)

●卓上タイプ<ラオスの絵日記>

ラオスで出会った人々、子どもたちの日常風景。サイズ10×22cm 再生紙使用。12枚スタンド型、定型封筒入り。980円(税別)

お申し込みはASPBまでお電話かFAXで。品物はSVAからお届けします。代金は同封の専用振り込み用紙でSVA宛にご入金ください。このカレンダーの収益は、SVAとASPBの活動に役立てられます。

寄付者・協力者の方々

一般寄付をはじめ、紙芝居購入やイベント参加、物資送付、外貨募金など、様々な形で会にご協力いただいた皆さまです。どうも、ありがとうございました。

98年4月(153件) 正月パーティ参加者含む

Bartolone A de Aquino 青木研次郎 青戸美代子 あさぬま ちずこ 芦屋和子 足立ふみ 足立ユウ子 荒恵理世 幸宣怡 石原静子 市川初子 伊藤洋子 入江かおり 岩田守史 磐田幼稚園・乗松和代 上田玲子 白井秀之 梅岡巴香 浦野あつ子 エカラートサイバカサ 大泉アイ 太田景子 太田潮美 奥弘一 奥田誠 尾崎曜子 小沢有作 小野崇 風巻浩 梶浦篤 加藤一世・美由紀 神谷幸宏 菊池歌子 柏原哲也 喜文字由季 栗田和彦 黒川京子 甲佐町立甲佐中学校生徒会 小林英治 小林千代子 近藤知子 斉藤善五郎・てる子 坂井まりこ 坂上朋代 佐藤初美 佐藤卓弥 沢田八愛 篠本美知代 清水宏子 下田瑞恵 ジュリアン・ヨーク 杉谷佳洋 杉山絵理 鈴木佳弘 鈴木貢 鈴木真 鈴木朋子 関実枝子・国際ソロプチミストつくば 瀬名恵子 センサティット・スィヴァニサヴォン ソヨダ・マスタ 高橋圭子 高橋泉 高橋鐵雄 田中優子 谷田恵子・哲暁 玉村翔吾 竹前聖子 つちだ耕平 土屋麻利子 鶴岡包 鶴水まひる デヴィッド・モリス 寺田宏子 戸叶真理 東江智輔 東急エージェンシー 東京海上火災保険株式会社



・社会環境室 東の宮美智子 富田荘子 トンバン 中上清香 長井喜代子 中川恵賞 中田路子・夢 中辻鈴子 中坪央暁 長野ヒデ子 中平順子 中道峰子・星子 中村晴年 中村知栄美 中山邦彦 西村由美 西村麻貴 丹羽成子 野崎秀和 蛤谷一通 坂香恵子 パンバキット・アヌソン 平島二郎 平田京子 平田朋子 平林志子 広田さゆり 藤井秀樹 藤江健 藤本鉄也 淵上智子 フランソワ・デュボワ 古内忠輔 古沢良文 ポーンケオ・チャンタマリ 穂積夏子 本郷敦子 毎熊康尚 増原久子 マツザひとみ 三角節子 光本政彦 南康雄 三宅典子 宮崎ゆりか 宮田善久 宮本良美 本橋幸子 本山美穂 森陽子 矢野順子 やべみつのり 山崎佳子 山崎砂登美 山崎妙子 山之内美佐子 山本功子 油座チセノ 葉由記子 横川宣行 吉田よし子 吉田健次・ベッサワーン 吉浜稔 吉本紀子 ラオスに環境の絵本を送る会(苗村信行 内海弘子 大砂彰 小吹佑志 ガイヤシンフォニー3番での募金 重田康博 篠田慶次郎